

511) 股間

小生は電車の中で座って行くのが好きで、どちらかといえば駅が近づくたびに、キョロキョロと空席を探す嫌な親父タイプである。しかしどうしたはずみかその時に限って、目の前の席が空いたにもかかわらず、座らなかつたのであります。もう一つ二つで下車しなければならなかつたのと、手荷物が大きくて、座りにくかつたからであります。すると小柄なおばさんが背後からスーと現れて、その席に座ろうとしたのであります。ところがその瞬間、電車が動き初めて、おばさんは危うく転びそうになってしまいました。それでこともあろうに宙に浮いたおばさんの手が、反射的に我輩の粗チンをムンズと掴んだのであります。イヤー驚いたのなんのって、おばさんだつてわざとそこをめぐめて掴みかかつたわけではなし、たまたま手の前に我輩のナニがあつたわけではありますが、とにかくナニよりもお互い、きまり悪いのでありまして、おばさんは「すみません。すみません。」としきりに謝るし、我輩にしてみれば、ちょっと痛かつたけど、これは電車の中で足を踏まれたのと同じ類の話だから「このやろー、ナニをナニして、ナニするんでー！」とも言えないし、イヤーこんなにまいった話は久しぶりのことでありました。それにしても若くて綺麗なネーチャンでなかつたところに、我輩の運勢の限界を感じた次第であります。